

一般入学選考 A 国語 (二日目)

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

伝統文化を守っていくには、とるべきセンタクシ⁽¹⁾が二つあります。

一つは、昔の様式やしきたりを、そのまま守っていくやり方を選ぶことです。たとえば能楽は、この方法によって、数百年前の芸術様式を現代に息づかせています。ただ、能楽の場合は成功しましたが、昔のままに伝えていくやり方は、時に文化を化石化させ、今を生きる人たちにとって無意味なものにしてしまう恐れがあります。それは、生きているようで、実は生きていない文化の「ゾンビ化」⁽¹⁾ともいえます。

もう一つが、核心をしっかりと押さえながら、時代に合わせて姿・形を柔軟に変化させていく方法です。これは文化の健全な継承の形ですが、核心への理解がなければ、本質とは異なるモンスターを生む方向へと進んでしまう恐れがあります。前段の「ゾンビ化」⁽²⁾に対し、こちらは「フランケンシュタイン化」といえそうです。

中国の観光開発では、古い町並みを破壊し、そこに映画セットのような「新しく古い町」を建設する手法がよく見られます。一見すると歴史的な雰囲気がありますが、素材や形、作り方などは本物の中国文化とは、かけ離れたものです。テーマパークのような「新しく古い町」を見慣れた観光客は、自国文化であってさえ、本物とま^aが^aい物の区別がつかなくなりません。これがフランケンシュタイン化の持つ脅威です。

京都でもこの数年、町にフランケンシュタイン化が目立つようになりました。その一つが、外国人観光客を相手にした、

安価な着物を扱う小売店やレンタルショップの流行です。

そこで扱っている着物は、本来の着物に比べて色や柄が不自然に明るく、派手なものばかり。生地もポリエステル製などの安っぽいもので、日本の伝統を継承して作られたものではありません。装いにしても、冬に浴衣を着たり、浴衣なのにポリエステル感のある華やかな帯と合わせたりと、奇妙で陳腐なケースが多く見られます。本当の着物文化を知らない外国人は、このようなまがい物でも日本の伝統的な衣装だと錯覚し、喜んで着てはそのまま街を歩き回っています。⁽³⁾

ホテルや簡易宿所の建設ラッシュの中、京都の建物空間にも、そのようなフランケンシュタイン化が忍びこんでいます。ある新設のホテルでは、レストランの照明シェードに、逆さにした和傘を取り付けていました。デザイナー目線で見たら、和風の新しい解釈なのかもしれませんが、この光景を見て、知り合いの京都市人は A したそうです。なぜなら京都には、家の中で傘を開くことを不吉な印として忌み嫌う文化が今も伝えられているからです。

⁽⁵⁾ これらの現象は、日本の文化や伝統に対する観光客や事業主の無知、という表面的な問題だけではなく、根本に別の要因があります。それはすなわち、当の日本人が自分たちの伝統の着物や、町家のような空間の継承を放棄したということですが、まがい物の着物や逆さの傘は、単純に「デザイン目線」から生まれたものではなくて、「観光客を喜ばせるために、無理に創造した日本」として、ほかならぬ日本人が作ったものなのです。

日常に本物が息づいていれば、まがい物はすぐに見破られ、安っぽいコピーが氾濫することはありません。たとえば着物のレンタルも、京都で長い歴史を持つ呉服店が手がけているものだったなら、着物文化の B のかもしれません。しかし、残念ながら現在の日本では、いたるところに「文化の空白」が生じてしまっています。そして空白が広がった結果、それを喜ぶフランケンシュタインが入り込んでしまった、ということなのでしょう。

歴史的な文化や文化財を扱う人たちが、本来の意味合いを忘れて、観光客向けに安っぽいものを提供する流れを英語で「dumping down」、つまり「稚拙化」と呼びます。

日本で稚拙化が引き起こされる原因は、インバウンドの増加だけではありません。たとえば国や地方自治体、公共機関な

どが作る「マスコットキャラ」や「ゆるキャラ」⁽⁶⁾。熊本県の「くまモン」の大成功が典型例ですが、今や日本全国どこへ行っても、キャラクターの笑顔に迎えられます。これはインバウンド向けというより、日本人を対象にした観光業の副産物といえるでしょう。

「ゆるキャラ」は駅前や商店街、遊園地といった繁華街で出会えれば、にぎやかで楽しいし、効果もあると思います。しかし歴史的寺院の山門や神聖な神社の鳥居の前、境内、美術品の横にまで「ゆるキャラ」を持つてくるとなれば、稚拙化に歯止めがきかなくなります。

日本での文化の稚拙化は、世界遺産に登録された場所でも、見受けられるようになっていきます。

京都の二条城がオリジナルの襖絵を劣化から守るために、複製したものに差し替えて展示・公開していることを記しました。京都市のHPによると、襖絵の復元・保存は1972年から「二の丸御殿」で取り組まれています。

室町と江戸時代の襖絵はくすんだ紙の色、金箔に表わされた「箔足はくあし（継ぎ目を重ねた部分）」、そして岩絵の具と墨の深い色合いによって、神秘的で瞑想的な雰囲気をもっていることが特徴です。その雰囲気があるからこそ、鑑賞者は美術品が伝えられてきた年月に思いをはせ、深いカンキョウかんきょうを味わうことができます。

しかし近年、二の丸御殿で差し替えられた複製の襖絵は、岩絵の具の繊細な色合いが単調なものに、独特のくすんだ金色はキラキラ輝く派手なものへ置き換わっていて、それらが強烈なライトで明るく照らされています。外国から訪れた私の友人を二条城に案内したとき、彼から「C」ですね」といわれました。まさに二条城の稚拙化がもたらした感想です。

維持管理のためにオリジナルをはずし、複製に入れ替えるのは仕方ないことでしょう。（ア）、今の時代は幸いなことに複製技術が非常に発達していて、近くで見てもオリジナルかコピーか、見極められないほど素晴らしいものができるようになっていきます。たとえば大覚寺の宸殿にある襖絵も複製ですが、「箔足」が上手に復元されているので、にわかには複製とは分かりません。二条城でも二の丸御殿の廊下にある菊の襖絵は、やはり「箔足」をうまく復元しており、この建物が持つ

重みと調和しています。⁽⁷⁾ そのような技術力があるにもかかわらず、近年展示された二の丸御殿の襖絵や壁画は、金色のラック・ピンクペーパーのような質感です。

稚拙化を防ぐには、管理者側の信念がまず問われることとなります。二条城であれば、「ここは將軍と大名が謁見した格式高い場所である」という認識が管理者側にしっかり根付いていれば、このような複製のクオリティにはならなかったのではないのでしょうか。⁽⁸⁾

文化財を管理している人たちには、「保存」と「維持」だけではなく、次世代の日本人と訪日外国人に、日本文化の真髄を伝える義務があります。予備知識のない観光客だからこそ、質の高いものを見てもらい、その「目」を底上げする努力が必要です。幸い、オリジナルの襖絵は敷地内にある「二条城障壁画展示収蔵館」に保管されています。二条城を訪れる人は、二の丸御殿を回った後に、こちらで本物を見ることをおすすめします。

観光には D な側面も含まれます。分からない人たちに合わせて稚拙化を行うのではなく、最高のものを親切的形で提供してこそ、文化のレベルアップは果たされるのです。

「稚拙化」は文化財だけでなく、私たちの足元の町にまで及んでいます。

京都・錦市場は別名「京の台所」といわれるように、長いアーケードの両側に、漬物店、味噌店、八百屋さん、肉屋さんなど、食べ物関連の店がずらりと並び、京都を代表する商店街の一つでした。旅館や料亭などに高級食材を卸す機能を持ち、店頭を彩る食品も細工を凝らした京野菜など、（イ）京料理のお膝元といえる充実ぶり、訪れるたびに驚きと楽しみが尽きない場所でした。

しかし、インバウンドの増加につれ、通りの雰囲気はガラリと変わってしまいました。かつての魚屋さんが、どこにでもあるような土産物屋やドラッグストア、食べ歩きスイーツや軽食の店に入れ替わったのです。観光客は食べ歩き用の串刺しとなった肉料理や魚料理、またはソフトクリームを片手に市場を練り歩きます。このまま錦市場で売られるソフトクリームが定着したら、商店街はまるで「道の駅」になってしまいそうです。いえ、道の駅なら地元の名産を積極的に扱っているで

しょうが、今の錦小路には、その感覚すら薄れています。⁹⁾

商店街が観光地化されることで、それまでの町とは関係のない業者や商品が入ってきて、その地域全体の文化や個性が消えてしまうことは、世界的な問題となっています。

たとえばバルセロナでも、800年にわたって市民の胃袋を満たしてきた「ボケリア市場」が、観光ブームによって変質してしまいました。観光ブームに沸く前までは、飲食店主だけでなく、近隣の住民が毎日の買い物に訪れていた市場でしたが、近年、場内は自撮り棒を持った観光客で埋め尽くされるようになっていきます。こうなると、ちよつとした日常の買い物にも、恐ろしく時間がかかるようになり、地元の人たちは立ち寄りなくなってしまいます。市場の中にある店も、観光客をあてこんだピザスタンドなどが幅をきかせるようになり、地元の人たちは E いるのです。

一方で、インバウンドの勢いを取り入れることで、商店街が活性化される可能性はありますので、やってくる観光客を単に排除することは得策とはいえません。

(アレックス・カー、清野由美『観光亡国論』より。文中省略あり。)

〔問一〕

太線——部(一)・(二)の漢字を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| (一) | センタクシ | ① 肢 | ② 枝 | ③ 支 | ④ 指 | ⑤ 子 |
| (二) | カンキョウ | ① 共 | ② 興 | ③ 境 | ④ 協 | ⑤ 響 |

〔問二〕

傍線——部(1)「ゾンビ化」の例としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① ホラー映画の主人公
- ② 昔のままの製法で作られているが、民家の倉庫でほこりをかぶっている織物
- ③ 昔のままに伝えられ、年に一度、夏祭りで地元の人々が見せる舞踏
- ④ 誰でも親しめるように現代風にアレンジした子ども歌舞伎
- ⑤ 数百年前の芸術様式を現代に息づかせている能楽

〔問三〕 傍線——部(2)「フランケンシュタイン化」の説明としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選

びなさい。

- ① 伝統の核心をしつかりと押さえながら、時代に合わせて姿・形を柔軟に変化させていくこと。
- ② 伝統に対抗して、モンスターのようにな人を驚かす文化を意図的に創造すること。
- ③ 伝統的な素材や形、作り方を守りながら、新しく古い町を作ること。
- ④ 伝統の核心を理解していないため、本物ではない異様な代物を生み出すこと。
- ⑤ 伝統を継承し、かつ人を呼び込むために、あえてモンスターを創造すること。

〔問四〕 波線~~~~部 a～cの言い換えとしてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びな

さい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------------|---|-----|---|-----|
| a | まがい物 | ① | フェイク | ② | レプリカ | ③ | レンタル | ④ | 舶来品 | ⑤ | 模造品 |
| b | にわか | ① | だしぬけ | ② | かりそめ | ③ | 即座に | ④ | 急いで | ⑤ | 独断で |
| c | お膝元 | ① | メッカ | ② | バザー | ③ | デモンストレーション | ④ | 台所 | ⑤ | 身近 |

〔問五〕

傍線——部(3)「喜んで着てはそのまま街を歩き回っています」に込められた著者の思いとしてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 喜んでくれてうれしい。
- ② そのまま街に出るとは大胆だ。
- ③ 着物で歩き回るのは大変だろう。
- ④ だまされているとは知らずに喜ぶとは、あきれてしまう。
- ⑤ 本人は分かっているが、見ていてばつが悪い。

〔問六〕

傍線——部(4)「逆さにした和傘」に対する著者の意見としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① レストランの照明シェードにつけるのは、斬新なデザインだ。
- ② デザイナー目線で見たく和風の新しい解釈だ。
- ③ 日本人には考え付かない、外国人ならではのアイデアだ。
- ④ 観光客を喜ばせるために、無理に日本人が作り出したまがい物だ。
- ⑤ 観光客に来てもらえるので、こうしたデザインをもっと増やすべきだ。

〔問七〕

空欄

A

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① はたと
- ② ぞっと
- ③ むっと
- ④ にやにや
- ⑤ がっかり

〔問八〕

傍線——部⑤

「これらの現象」に当てはまらないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 伝統に反して不自然に明るい色の着物が売られていること
- ② 冬に浴衣を着ること
- ③ 安っぽいコピーが氾濫していること
- ④ レストランの照明に逆にした和傘を取り付けること
- ⑤ 家の中で傘を開くのを忌み嫌うこと

〔問九〕

空欄

B

に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 継承を放棄した
- ② 継承を放棄しそこねた
- ③ 伝承にきちんとつながった
- ④ 伝承につながりかねた
- ⑤ まがい物を見破れた

〔問十〕 傍線——部(6)「マスコットキャラ」や「ゆるキャラ」に対する著者の意見としてもっともふさわしいものを、

次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 外国からの観光客を呼び込むために作られたフランケンシュタインである。
- ② 稚拙化に歯止めが利かなくなるので、日本全国から撤去すべきである。
- ③ 利用する場所を選ばなければ、文化の稚拙化がおきてしまう。
- ④ 熊本県の「くまモン」の大成功の典型例に、他の地域も倣うべきだ。
- ⑤ にぎやかで楽しいので、歴史的寺院や神聖な神社でも有効活用すべきだ。

〔問十一〕 空欄 C に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 箔足はくあしのよう
- ② 神秘的で瞑想的
- ③ 二条城の二の丸御殿
- ④ 大きな土産物屋のよう
- ⑤ 世界遺産に登録されたそう

〔問十二〕 空欄 (ア)・(イ) に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| ① やむなく | ② いわゆる | ③ たとえば | ④ あるいは |
| ⑤ おもむろに | ⑥ ただ | ⑦ ともすれば | ⑧ さすが |

〔問十三〕 傍線——部(7)「そのような」が指す内容としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 箔足はくあしを作り出す
- ② オリジナルそっくりに復元する
- ③ 複製に入れ替える
- ④ 菊の襖絵ふすまを描く
- ⑤ コピーを作り出す

〔問十四〕 傍線——部(8)「このような複製のクオリティ」の説明としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 二の丸御殿の襖絵ふすまや壁画の数が非常に多いこと
- ② 二条城の二の丸御殿の格式が極めて高いこと
- ③ 文化財の管理者が複製に対して高い見識を持っていること
- ④ オリジナルと見分けが付かないほど質が高いこと
- ⑤ オリジナルからかけ離れていて非常に悪質であること

〔問十五〕 空欄

D

 に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 教育的
- ② 教訓的
- ③ 批判的
- ④ 伝統的
- ⑤ 道義的

〔問十六〕 傍線——部(9)「その」が指す内容としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 訪れるたびに驚きと楽しみが尽きない
- ② 通りの雰囲気ガラリと変わってしまった
- ③ ソフトクリームを片手に歩いてはいけない
- ④ 地元の名産を積極的に売り出そう
- ⑤ 外国人観光客を呼び寄せなければならない

〔問十七〕

空欄

E

に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 「観光客が来てくれて、市場が活気付いた」と喜んで
- ② 「自撮り棒だらけで危ない」と恐れて
- ③ 「ぜひボケリアに来てください」と宣伝して
- ④ 「買い物に時間がかかるのは仕方がない」と諦めて
- ⑤ 「もうボケリアには行けない」と嘆いて

〔問十八〕

本文のすぐ後に、英語や中国語を話せるスタッフを置いたり、SNSにアップされることを念頭に置いたサービスを رفتたりして、外国からの来訪者数を大きく伸ばした大阪の黒門市場のことが紹介されています。著者は黒門市場をどのように評価すると推測できるでしょうか。もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① SNSにアップされることを念頭に置いたサービスなど、フランケンシュタイン化そのものだと非難する。
- ② 英語や中国語を話せるスタッフをわざわざ置かなければならないのは、稚拙化に他ならないと批判する。
- ③ 地元の人が排除されてでも、外国からの来訪者を増やして利益を求めるのは、商魂たくましい大阪ならではのことであきれれる。
- ④ 外国人観光客を単純に排除せず、むしろ上手に取り込む努力を続けて、地域の活性化に成功した点は高く評価できる。
- ⑤ 地域の活力を取り戻した成功例なので、同様の戦略をすべての商店街や観光地でも採用するべきだ。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

『法華経』は、釈尊（お釈迦さま）が亡くなって五百年ほど経った頃（一世紀末～三世紀初頭）に、インド西北部で編纂されたと考えられています。

最初は原始仏教の時代です。原始仏教とは初期仏教ともいい、釈尊在世（中村元先生によると、前四六三～前三八三）の頃、および直弟子たちがまだ生きている頃の仏教を指します。

釈尊滅後百年ほどが経った頃、紀元前三世紀に第二回仏典結集が行なわれ、そこで仏教教団は保守的な上座部と進歩的な大衆部に分裂します（根本分裂）。それがさらに枝分かれし、二十の部派にまで広がります（枝末分裂）。その中で最も有力だったのが、説一切有部という部派です。権威主義的で資金も豊富であり、後に「小乗仏教」と批判されるのはこの部派のことを指します。

そして前二世紀頃、「覚りが確定した人」を意味する「菩薩」⁽¹⁾の概念が現れます。これは覚りを得る前、ブッダになる前の釈尊を意味するものとして、小乗仏教が発明した言葉です。釈尊滅後、その言動を記したさまざまな仏伝が書かれるようになるわけですが、「あれだけ偉大な釈尊なのだから、過去にはきっとはるかな長い時間をかけて修行されたに違いない」という思いから、長い修行のある時点で、燃燈仏（ディーパンカラ）という仏が「あなたは将来、仏になるだろう」と釈尊に予言（授記）した、という話が作られました。（ア）、仏になることは確定したが、まだ仏になっていない状態の釈尊を何と呼ぶかということ、覚り（bodhi）と人（satva）をつなげて bodhi-satva（菩提薩埵、略して菩薩）とし、「覚りが確定した人」という意味の言葉ができたのです。

これに対して、紀元前後頃、菩薩という言葉の意味を塗り替える動きがオコります。すなわち、bodhi-satvaを「覚り（bodhi）を求める人（satva）」と読み替え、覚りを求める人はだれでも菩薩であると考えた大乘仏教がオコったのです。小乗仏教では菩薩と呼べる存在は釈尊と未来仏の弥勒（マイトレーヤ）だけでした。それをあらゆる人に解放したわけです。

原始仏教では、出家・在家、男女の別なく覚りを得ていました。釈尊が初めて教えを説いたときが、「そのときじつに世に五人の尊敬されるべき人（阿羅漢）⁽²⁾あり、世尊を第六とする」と記されています。阿羅漢とはサンスクリットの *arhant* の音写で、もともとはブッダの別称でした。ですからこの五人は覚りを得たということです。そして六番目が世尊、つまり釈尊だと言っている。しかも覚りの内容は、釈尊の場合も五人の場合も同じ表現で書かれています。

（イ）、在家のまま聖者の最高の境地に達した王について、森林に住んでセイ⁽¹⁾励する必要はなかったという記述も原始仏典に見られます。そして、女性ももちろん覚りを得ていました。弟子の阿難（アーナンダ）が釈尊に「女性は阿羅漢に到ることができるのですか」と聞いたとき、釈尊は「女性も阿羅漢に到ることができます」と答えています。女性出家者の体験を綴った詩集、拙訳『テリー・ガーター 尼僧たちのいのちの讃歌』を読むと、「私は覚りました」「ブッダの教えをなし遂げました」「私は解脱^{げだつ}しました」とみな口々に語っています。

ところが部派仏教になると、ブッダに到ることができるのは釈尊一人だけということにされてしまいます。出家者も阿羅漢にまでしか到ることができないとして、ここで阿羅漢のランクをブッダより一つ下げるといふ操作がなされます。もともとはブッダも阿羅漢も同列でしたが、阿羅漢をワンランク下げることで、「出家者は阿羅漢にまで到ることができる」としたのです。そして、在家者は阿羅漢に到ることもできないし、女性は穢^{けが}れていて成仏もできないと言いはじめました。これは小乗仏教の差別思想でした。

そうした状況の中で、大乘仏教がオコります。大乘仏教は、以前は小乗教団の外側でオコったと考えられていましたが、現在では小乗教団の内部から、改革派としてオコったとする説が有力です。

さきほど述べたように、大乘仏教はまず「菩薩」をあらゆる人に解放しました。bodhi-sattvaを「覚りが確定した人」から「覚りを求める人」に読み替え、あらゆる人が成仏できると主張したのです。しかし、彼らはそこに二つだけ例外を作りました。⁽³⁾「声聞」と「独覚」の二つ（二乗）です。「声聞」とは師についてその教えを聞いて学ぶ人のことで、もともとは仏弟子一般を表す言葉でした。ところが小乗仏教では、これを小乗仏教の男性出家者に限定したことから、大乘仏教では小乗

を批判する言葉として用いるようになります。「独覚」とは師につかず単独で覚りを目指す（または開いた）出家者のことです。大乘仏教では、これら小乗の出家者は仏になれないとしていました（二乗不作仏）。これは、大乘側の差別思想でした。大乘仏教では声聞と独覚を「炒れる種子」と呼んでいます。植物の種をフライパンで炒つたら、もうその種から芽が出ることはありません。そのような譬えで、これら二乗には永久に成仏の芽は出ないと批判したのです。

このように、小乗には小乗の、大乘には大乘の差別思想がありました。両者の差別思想と対立を克服し、普^三へんの平等思想を打ち出すという課題を受けて成立したのが『法華経』です。

そして何より、『法華経』に一貫しているのは「原始仏教の原点に還れ」という主張です。「今の仏教は本来の仏教とは違う」という考えから、小乗・大乘それぞれの問題点を浮き彫りにし、それを乗り越えようとして生み出されたのが『法華経』なのです。

「序品」を受けて、第二章「方便品」(第二)が始まります。

その時、世尊はしっかりとした意識をもって、思慮深く、その三昧(瞑想)から立ち上がられた。立ち上がると、尊者・舍利弗に話しかけられた。

「舍利弗よ、正しく完全に覚った尊敬されるべき如来によって覚られたブツダの智慧は、深遠で、見難く、知り難いものであって、一切の声聞や、独覚(辟師仏)によっても理解し難いものである。」

ここで釈尊は、(ウ)、小乗仏教の声聞や独覚にはブツダの智慧は理解できないと突っばねています。これよりあとのところには、大乘仏教の菩薩すらもそれを理解できないという言葉も出てきます。つまり、声聞、独覚、菩薩のすべてを否定しているわけですが、最終的にはその三つすべてが肯定されることになるというのがこの「方便品」です。

これに続けて、釈尊は何のためにこの世に出現したかを語ります。

「正しく完全に覚った尊敬されるべき如来は、ただ一つの仕事のために、大きななすべきことのために、世間に出現するのである。すなわち、衆生を如来の知見によって教化きょうげするという理由と目的で世間に現われるのだ」

こう前置きして釈尊は、衆生に如来の知見を開き、示し、覚らせ、入らせるといふ如来の出現の四つの理由と目的を語ります。これは究極的には、「一切衆生を成仏させること」に集約されます。

そして釈尊は、衆生がブツダに到るための「乗り物」について説きます。乗り物とは、それに乗れば目的地に到達させてくれるもの、つまり教えの譬えです。

「私はただ一つの乗り物（一乗）、すなわちブツダに到る乗り物（仏乗）について衆生に法を説くのだ。そのほかに何か第二、あるいは第三の乗り物が存在するのではない。ブツダ・世尊たちのすべてもまた、衆生にただ一つの乗り物、（エ）、一切知者の智慧（一切主智）を終着点とするブツダに到る乗り物について法を説いたのである」

これが『法華経』の主張する「一仏乗」です。つまり、今までは声聞のための乗り物、独覚果に到る乗り物、菩薩のための乗り物という三つの乗り物が説かれていたが、私が本当に説きたいのはブツダに到るただ一つの乗り物だ、というわけです。

そして、ここまできて釈尊は、声聞・独覚・菩薩の三種の乗り物（三乗）を説いたのは、一仏乗に導くための方便だったと明かすのです。

「私が、このように三つの乗り物を説くということは、私の巧みなる方便である。しかし、乗り物はただ一つであり、真実もまたただ一つであって、指導者たちのこの教えもまたただ一つなのだ」

すべての仏にとつて、あらゆる衆生を成仏されることが究極の目的なのだから、声聞・独覚・菩薩を区別するのは方便であり、ブツダから見れば人間は平等であるということです。そして釈尊は、「私は最高の覺りに向けて教化きやうげするのであり、私にとつて、この世に声聞（と言われる人）は誰一人として存在しないのだ」と告げます。声聞といつても、それはあなたたちが勝手に決めつけてそう思い込んでいただけでしょう、私から見ればそんなものは存在しませんよ——ということです。さて、ここには重要なことが書いてあります。部派仏教の人たちには、「所しよせん、私は二乗だ」という先入観があります。二乗とは声聞と独覚であり、菩薩ではありません。だから「どうせ私は成仏できない。阿羅漢どまりだ」という A がある。釈尊はその人たちの心を解きほぐし、「あなたは声聞ではありませんよ、あなたは既に菩薩ですよ」と言っているわけです。その一方で大乘仏教の人たちは、部派仏教の人たちは二乗だから成仏はできないと思つている。その人たちに対しても釈尊は、「あの人たちが菩薩であることを理解しなさい」と言っています。

ところが、声聞に向けて言っていることも、菩薩に向けて言っていることも、当時の人たちにとつては理解しがたかつたことでしょう。⁽⁵⁾ 自分たちの主張や信仰とはまったく逆のことを、釈尊はここで言っているわけですから。だから釈尊は、最初に B 「と言っていたのです。しかし、これは否定の言葉ではありません。」

例えば、「あなたは無知だ」と言われたらカチンとくる人は多いでしょう。自分が否定されていると感じられます。（オ）、「あなたがいかに素晴らしい能力を持つているかについてあなたは無知だ」と言われたらどうでしょうか。肯定されていると感じられますよね。ここはそういうことなのです。「あなたには理解できない。何をかと言えは、自分が菩薩であることを理解できないのだ」という言い方で、聞き手をパパラドクシカルに肯定しているのです。⁽⁶⁾

『法華経』はあらゆる人の成仏を可能とする一仏乗こそが真実の教えであり、声聞・独覚の二乗に菩薩を加えた三乗の教えはすべて方便だとなりました。こうして三乗を融合させ、統一したのです。こうして原始仏教で説かれていた平等思想を回復し、差別を取り払ったわけです。二乗に菩薩の自覚をもたらし、大乘の人々には「二乗もまた菩薩」なのだということを受け入れさせて、声聞、独覚、菩薩の違いはあなたたちの思い込みに過ぎず、人間の平等を理解してこそ、真の菩薩なのだ

ということを説いているわけです。

(植木雅俊『100分de名著 法華経』より。文中省略・変更あり。)

〔問二〕 傍線——部(1)「菩薩」についての説明として間違って、いるものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 原始仏教では、菩薩という言葉はなかった。
- ② 小乗仏教では、菩薩とは将来ブツダになると決まっている人である。
- ③ 大乘仏教では、覚りを求める人はだれでも菩薩である。ただし声聞と独覚を除く。
- ④ 大乘仏教では、声聞と独覚を含め、覚りを求める人はだれでも菩薩である。
- ⑤ 小乗仏教では、釈尊と弥勒菩薩だけが菩薩である。

〔問二〕 空欄（ア）～（オ）に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-------|---|---------|---|------|
| ① | でも | ② | さもなくば | ③ | にもかかわらず | ④ | すなわち |
| ⑤ | そこで | ⑥ | ところで | ⑦ | ますます | ⑧ | そして |
| ⑨ | まず | ⑩ | また | | | | |

〔問三〕 太線——部(一)〜(四)のカタカナ部分に当てはまる漢字を、次の①〜⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(一)	オ コ リ	①	興	②	怒	③	起	④	隆	⑤	勃
(二)	セ イ 励	①	清	②	精	③	奨	④	齊	⑤	誠
(三)	普 へ ん	①	偏	②	編	③	遍	④	片	⑤	辺
(四)	所 セ ん	①	煎	②	前	③	栓	④	詮	⑤	宣

〔問四〕 傍線——部(2)「阿羅漢」についての説明として間違って、次の①〜⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 原始仏教では、阿羅漢はブツダである。
- ② 小乗仏教では、阿羅漢はブツダである。
- ③ 大乘仏教では、阿羅漢はブツダである。
- ④ 阿羅漢には在家者がいた。
- ⑤ 阿羅漢はただ一人である。

〔問五〕 傍線——部(3)「声聞」と「独覚」についての説明として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 原始仏教の頃から声聞と独覚はすでに区別されていた。
- ② 在家者でも単独で覚りを目指す人は独覚である。
- ③ 自ら覚りを得た釈尊は独覚である。
- ④ 師についても大乘仏教の出家者は声聞ではない。
- ⑤ 小乗仏教では、声聞と独覚のみが成仏できる。

〔問六〕 傍線——部(4)「開き、示し、覚らせ、入らせる」と同じ意味の言葉として、もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 成仏させる
- ② 教化する
- ③ 法を説く
- ④ 解脱する
- ⑤ 如来となる

〔問七〕 空欄 A に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 達観
- ② 卑下
- ③ 自負
- ④ 方便
- ⑤ 運命

〔問八〕 傍線——部(5)「自分たちの主張や信仰とはまったく逆のこと」とは何か。もっともふさわしいものを次の①～⑤

の中から一つ選びなさい。

- ① 声聞たちに向けては「あなたは菩薩ではない」、菩薩たちに向けては「あなたも声聞である」ということ。
- ② 声聞たちに向けては「菩薩も声聞だ」、菩薩たちに向けては「声聞も菩薩だ」ということ。
- ③ 声聞たちに向けては「菩薩も声聞だ」、菩薩たちに向けては「あなたは菩薩ではない」ということ。
- ④ 声聞たちに向けては「あなたは声聞ではない」、菩薩たちに向けては「声聞も菩薩だ」ということ。
- ⑤ 声聞たちに向けては「あなたは菩薩ではない」、菩薩たちに向けても「あなたも菩薩ではない」ということ。

〔問九〕 空欄 B に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① あなたたちは成仏できない
- ② あなたたちは決めつけている
- ③ あなたたちは無知である
- ④ あなたたちには理解できない
- ⑤ あなたたちは否定されていない

〔問十〕 傍線——部(6)「パラドクシカル」の意味としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 不条理
- ② 反語的
- ③ 対義的
- ④ 両義的
- ⑤ 逆説的

〔問十二〕 傍線——部(7)「声聞・独覚の二乗に菩薩を加えた三乗の教え」の説明として、もっともふさわしいものを次の

①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 声聞も独覚も菩薩も、すべて同じように成仏する。
- ② 菩薩は成仏できるが、声聞、独覚は成仏できない。
- ③ 声聞も独覚も菩薩も成仏はできない。
- ④ 声聞、独覚、菩薩であることをやめれば成仏できる。
- ⑤ 声聞、独覚、菩薩ではない衆生こそが成仏できる。

〔問十二〕 本文の趣旨にもっとも合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 『法華経』は何かにつけすぐに否定された気になる人たちに、巧みな方便を用いて謙虚な反省を促している。
- ② 『法華経』は何かにつけすぐに否定された気になる人たちを、巧みな方便を用いて肯定された気分にしてくれる。
- ③ 『法華経』はすべてを否定しながらも最終的にはすべてを肯定するという巧みな方便を用いて説得力を出している。
- ④ 『法華経』は巧みな方便を用いて肯定的な説を唱えてはいるが、否定から入っているのが残念なところである。
- ⑤ 『法華経』は否定の言葉を用いるのはよくないと考えるあまり、難解な方便に走ってしまっている面がある。

【解答例】

入試年度 : 2020
入試種別 : 一般入学選考
A日程 2日目
科目 : 国語

問No.	解答番号
1	1
2	2
3	2
4	4
5	1
6	3
7	1
8	5
9	4
10	2
11	5
12	3
13	3
14	4
15	6
16	8
17	2
18	5
19	1
20	4
21	5
22	4
23	4
24	5
25	10

問No.	解答番号
26	9
27	4
28	1
29	1
30	2
31	3
32	4
33	2
34	4
35	2
36	2
37	4
38	4
39	5
40	1
41	3
42	—
43	—
44	—
45	—
46	—
47	—
48	—
49	—
50	—